トップニュース

各地で

災者へ思いを寄せ、「このようなときにあって、私たちの生きる姿勢が問われており、本願に遇えた喜びを行動に表さなければなりません。限りない欲望を抱えた私たちですが、その自らの欲望を少しでも慎み、他者へ手をさしのべることが必

「苦しみ、悲しみに

と話した

仙台別院

仙台別院（中岡順忍輪番、仙台市青葉区）は3月9日、同別院本堂で東日本大震災一周忌法要を営んだ。

特に沿岸部で被害の大きかった福島、宮城、岩

「生きることに夢中

ると　孫に再会しようように手を取りなぶした。「私も娘も震夫を亡くした。心ぶていくような思いの参加したお茶会が楽しみになった。なきることに夢中なったが、ありがたいただいた」と話した。

勝縁寺

津波で28人の門徒が亡くなった福島県南相馬市の勝縁寺（湯澤義秀住職）で3月3日、大震災一周忌合同追悼法要が営まれ、遺族など30人が参拝した。

同寺の但野好吉総代長が挨拶で「津波だけでなく原発事故で避難を余儀なくされた。何とか懸命に生きた1年だったが、全国から多くの支援をいただき、皆さんとこの本堂で一周忌にお参りできることが何よりありがたい」と話した。

湯澤住職が「この1年、一日一日が精いっぱいだった。心の中は深い苦しみ、悲しみがのしかかっている。この苦しみ悲しみを取り除くことはできないが、亡くなられたはお浄土に生まれさまと成られた。ちの称えるお念仏『この世をしっかりきる』という励ましを聞いていこう」と呼びかけた。

喜多方市に避難している米倉美江さんは、義父と小学6年生の長女と小学5年生の長男が自宅で津波にのまれた。義父と長女の遺体は見つかったが、長女がいまだに行方不明。「日中は何とかやり過ごせるが、夜

龍谷大学吹奏楽部

南三陸町で支援演奏会

龍谷大学（赤松徹眞学長）の吹奏楽部（板敷慧代表）が3月4日、宮城県南三陸町で復興支援演奏会を開いた。社会貢献活動の一環として大学と同窓会組織の校友会などが費用を負担、同町との共催となった。

会場の志津川中学校にはグラウンドに建てられた仮設住宅入居者、隣接する登米市や気仙沼市に避難する人なども駆け付け200人が来場した。

「ふるさと」「浜辺の歌」など懐かしい唱歌のメドレーや歌謡曲のほか、ダンスや振り付けを交えたヒット曲などを次々と演奏。涙や笑顔の会場から惜しみない拍手が送られた。アンコールでは、最後まで防災無線で町民に避難を呼びかけた同町職員・遠藤未希さん（当時24歳）が所属していた日本舞踊グループのメンバーが飛び入り参加。学生と一緒になって踊りを披露し、会場が一体となって和やかなひとときを過ごした（写真）。学生と同中学の吹奏楽部員の交流も行われ、音楽を通した触れ合いの輪が広がった。会場からは「震災後、初めてのコンサート。心に響く音色に元気をもらった」（60代女性）など、喜びに満ちた感想が多く寄せられた。

板敷代表は「自坊（茨城県）で被災した両親から音楽が不安を和らげる大きな力になったことを聞かされた。参加部員87人全員が初の被災地訪問で不安もあったが、少しでも元気になってもらいたいと思い、明るい演奏を心掛けた。『どれだけ南三陸が復興したか、また見に来て』と声をかけてもらい、僕たちが元気をもらった」。同行した鍋島直樹教授は「学生たちは被災地に元気を与えると同時に、無念や悲しみ、希望などさまざまな現地の思いを受け取ってくれたと思う。この体験、現場で見た真実を深く受け止め、広く伝えていってほしい」と話した。